

事務事業 No./名称	■サービス部門 景観-07 緑地保全事業 □支援部門				ザイムスコード及び個別事業名		
	みどり課 関連課				673	保存樹林等奨励事業	
主管課	みどり課				306	保存樹林等奨励事業	
分野名	みどり				308	緑地保全基金積立金	
目標 (目標値)	鎌倉市緑の基本計画に基づく緑地の保全						
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考			
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)			
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯				
運営資源 状況	決算値	154,616千円	81,523千円		指標と評価		
	(国・県)	2,859千円	1,864千円		指標	緑地取得面積	
	(負担金等)				評価	◎	
	(一般財源)	151,757千円	79,659千円		◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		
	人員配置数	2.1人	2.1人			目標値	実績値
	人件費	19,370千円	19,513千円		20年度	0.5ha	0.5ha
	協働の パートナー				21年度	1.0ha	1.0ha
事務事業 運営経費	総事業費	173,986千円	101,036千円		22年度		
	市民1人当 りの経費	985円	572円		23年度		
	対象者1人 当りの経費				最終年度 (年度)		
ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名						
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・緑地保全契約や保存樹林の契約を締結していても、相続の際に管理の問題や高額な相続税が生じ、事業者等に売却され開発されるケースが多くなっている。 ・豊かな自然環境の保全や都市環境調整機能維持のため、市有緑地の適正な維持管理が必要となっている。 ・緑地の取得やみどり債の償還等により、基金の基盤が弱くなっていることから、更なる基金の充実が必要である。					
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・手広・笛田地区を相続税が8割評価減の対象となる特別緑地保全地区の指定に結びつけた。 ・生物多様性の確保をはじめとする緑地の機能向上や健全で良好な緑地景観形成を図るため、特別緑地保全地区内の市有緑地について、適正整備事業として除伐、つる切り、倒木の処理等を実施した。					
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・緑地保全基金については、近年の厳しい財政状況下において、市費積立が困難な状況にあるが、今後もみどり債の償還金や広町・台峯等の緑地取得のため、多くの基金取り崩しの予定があることから、これまでの積立水準を維持できなければ基金の破綻も予想される。					
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・緑の保全に係る事業を円滑に推進するため、その財源となる基金の充実を図る必要がある。 ・緑地保全は、鎌倉市のまちづくりの基本となるものであることから、都市計画税のうち一定割合を基金に積み立てるなど、緑地保全基金が安定して活用できるような財源確保の検討が必要である。					
一次評価(課長評価)				二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了							
評価結果	改善の必要性	鎌倉市の緑の多くは民有地で占められており、市が支援することにより貴重な緑の保全が図られている。今後は、地球温暖化防止の観点から維持管理に関しても支援できるような制度の検討が必要である。			評価結果	改善の必要性	今後も緑地取得等により、基金を活用する計画があることから、緑地保全に影響がないように配慮しながらも、総合的な行財政の枠組みの中で基金の充実を図る必要がある。
A	有				A	有	
課長名		みどり課長 川名 達哉			部名・部長名		景観部長 土屋 志郎